

気づきを高め、音楽表現を追求する子ども

— 中学2年「ドラマのオープニングに曲をつけよう」の実践から —

1 単元のねらい

映像から受けるイメージと音楽を形づくっている要素をかかわらせながら旋律をつくることができる。

2 授業の構想

(1) 子どものとらえ

小学校においては、イメージに合う音をつなげての音楽づくりやリズムを中心とした簡単なおはやしづくりなどを経験している生徒が多い。そして中学校においては、1年時にテーマをもとにしたリズムの創作とリコーダーを使っての簡単な旋律の創作を行なった。リズムの創作では、グループ内での即興的な会話のやりとりの中でリズムを生み出す取り組みを行った。以下に示す文章は、そのときのふりかえりである。

拍の中にリズムを入れることを考えると難しいけど、会話のやりとりとして言葉を入れると意外と簡単にリズムになりました。そして、何回かやっているうちに、普段何気なく使っている言葉には、すでにリズムがあることにびっくりしました。
(生徒A)

このふりかえりから、最初は戸惑いながらも言葉そのものがすでにもっているリズムに気づきながら意欲的に取り組む姿がうかがえる。一方、旋律の創作では、曲をつくってみたいという強い意欲を示しながらも自分の思った音程やリズムを実際に音符で書き表す段階になったところで記譜に対する困難さを感じる生徒が多かった。

また、1年時に音楽と映像の関係について学習した。教材には映画「ジョーズ」「スターウォーズ」のテーマ曲（音楽のみ）とWalt Disneyの傑作アニメーション映画「ファンタジア」から「魔法使いの弟子」「動物の謝肉祭」「威風堂々」（音楽と映像）を使用した。前者はストーリー、場面、映像からイメージされた音楽の創造であり、後者は既存の音楽からイメージされた映像の創造である。以下に示す文章は、そのときのふりかえりである。

映画やドラマには必ず音楽が入っています。しかし、映画やドラマの中で音楽がどのような役割をしているのか今まで考えたこともありませんでした。音楽のおかげで場面をより楽しく感じさせたり、怖くしたりするなど、音楽で印象が深くなることに気づきました。これから映画やドラマを観るときに、そこで流れている音楽も意識して見たいと思います。それから無理かもしれないけど、自分でもこんなふうに音楽がつくれたら楽しいだろうなと思いました。
(生徒B)

このふりかえりから、音楽が映像に与えている影響に気づき、映画やドラマの中での音楽の役割に対する興味・関心が高まり、さらには自分で曲をつくってみたいという気持ちが生まれている姿がうかがえる。生徒Bのように、自分でも映像に合わせて曲をつくってみたいと思った生徒が多数いた。

(2) 本題材において求めたい姿とそのための手立て

中学2年時の創作領域では、自己のイメージや音楽を形づくっている要素とかかわらせながら、それを生かし、音を音楽へと構成し、旋律をつくらせることを大切にしている。イメージしたこと

を表現へとつなげるために試行錯誤する子どもの姿を実現するべく、本題材の授業を構想した。

本題材では、ドラマのオープニングに8小節の旋律をつける。映画やドラマに挿入されている音楽は、単なるBGMではなく、登場人物の心情や場面をサポートし、その心情や場面の雰囲気を中心に増幅させるものである。従って、映像から受けるイメージを主人公の気持ちに変換し、それと音楽を形づくっている要素をかかわらせながら旋律をつくる。

また、イメージから音やリズムを選び、つむいで旋律をつくっていくためには、様々な手立てを準備し、生徒の思考を揺さぶらねばならない。その手立てとして、音符の長さ・リズムの違いによる雰囲気の違いを感受したり、気持ちを表現する音の高さと速度、旋律ラインの関係を考えたりする場を設定する。そして、生徒が表現したいイメージをもち、音楽を形づくっている要素とのかかわりに気付き、それらを変化させながら試行錯誤してイメージを旋律にしていく姿を期待する。

イメージを音として具現化していく過程において課題となるのが記譜である。1年時にとったアンケートでは、読譜を苦手とする生徒が54%、記譜を苦手とする生徒が87%であった。楽譜を書くことへの抵抗を感じている生徒が多いため、PC作曲ソフトを使用する。作曲ソフトは今や多数開発され、インターネットで無料ダウンロードできるものもある。今回はその中のフリーソフト Finale Note Pad2012を使用する。細かい操作は慣れないと容易ではないが、音選びが容易なことと、選んだ音やリズムをすぐに再生でき、耳で確認できることに利点がある。イメージと音のつながりや音と音とのつながりなどを十分に試しながら創作することができるため、より追求する姿が表れることを期待する。

今回使用する映像は、2014年、文化庁地域発・文化芸術創造発信イニシアチブ（大学を活用した地域文化芸術振興事業）による松江市・松江市教育委員会・島根大学・島根県民会館において共同開発された『しまね映画塾2014 in宍道』映画データより『臭れ縁』『うたかたの季』を扱う。

3 展開計画（全5時間）

| 次 | 時 | 主な学習と具体的な学習・内容 | ◇追求する子どもの姿 |
|---|--------|--|-----------------------------|
| 1 | 1 2 | ○PCソフトの操作技能を習得する。 ・Finale Note Pad2012の操作方法を知る。 ・与えられた枠組みの中で8小節の旋律をつくる。 | |
| 2 | 3 | ○音楽が映像に与える影響を探る。 ・『臭れ縁』の冒頭場面を音楽付き映像と音楽なし映像（アビット版）で観比べて音楽が映像に与える影響に気付く。（個→全体） ○気持ちを表現する音の高さと速度の関係を考える。 ○気持ちと旋律ラインの関係を考える。（全体） ○音符の長さ・リズムの違いによる雰囲気の違いを感じ取る（個→全体） ○主人公の心の中のセリフを想像する。 ・『うたかたの季』の冒頭からタイトルが表れるまで（セリフのない場面）をアビット版で観て、主人公の気持ちを探り、心の中のセリフを考える。（個） | ◇音楽を形づくっている要素に着目して影響を探っている姿 |
| 3 | 4 | ○旋律をつくる。 ・主人公の気持ちから音の高さを考え、ライン（旋律ライン）で表す。（基準の高さを示す）（個） | |

- ・リズムが違くと雰囲気が変わってしまう。
- ・5・6小節目を盛り上げたらいい。
- ・流れをつくることは、音楽にとって大事なことだ。

これらの気付きが、次なる旋律づくりでの手がかりとなった。

2時間目は、Finaleの操作方法の復習と枠組みを1つ増やしての試しの旋律づくりを行った。本題材では、イメージと音楽を形づくっている要素をかかわらせながら旋律をつくることをねらいとしているため、前時の枠組みに「花」というイメージを加えた。

まず、漠然とした「花」というテーマを与え、次に「〇〇な花」のようにイメージをより深める一言を付加えさせ一人一人具体的なイメージをもたせた。生徒は「かわいらしい小さな花」「華やかな花」「ゆれる花」などの具体的なイメージをもった。そして、イメージを旋律で表現するためには何をどうすればいいのか試行錯誤し、右のような音やリズムの工夫が生まれてきた。

- ・「かわいらしい小さな花」・・・8分音符, 16分音符
- ・「華やかな花」・・・高めの音, 細かい音符
- ・「きれいな花」・・・明るい色→高めの音
- ・「大きな花」・・・低い音, 長めの音符
- ・「空に舞う花」・・・高い音
- ・「ゆれる花」・・・ひらひら→シラシラ

(2) 音楽付き映像と音楽なし映像の比較 (第2次第3時)

音楽が映像に与える影響を探るために、『臭れ縁』の冒頭場面(2分)を音楽付き映像と音楽なし映像(アビット版)で観比べたところ、次のような気付きがあった。

<音楽付き映像>

- ・主人公などの気持ちやその場の雰囲気が伝わりやすい。
- ・感情を想像しやすかった。
- ・こっけいで笑える場面を感じた。
- ・次の展開を期待して見ていて、わくわくドキドキした。

<音楽なし映像>

- ・物足りない感じがする。
- ・ギスギスした場面を感じた。
- ・セリフに間を感じた。
- ・ドラマっぽくない。

(3) 思考を揺さぶる手立て (第2次第3時)

イメージから音やリズムを選び、つむいで旋律をつくるために、様々な手立てを準備した。上述の(2)は、7つの手立て【ステップ】の一番目である。以下、次のようにステップを踏んで行った。

【ステップ2】 気持ちを表現する音の高さと速度の関係を探る

【ステップ3】 ラインからイメージする気持ちを探る

【ステップ4】 音符の長さ・リズムの違いによる雰囲気の違いを感じ取る

【ステップ5】 主人公の気持ちを探り、心の中のセリフを考える

【ステップ6】 主人公の気持ちをラインで表す

【ステップ7】 この場面のトータルな気持ちを表す速度を探る

【ステップ4】は、1～10のリズムパターンを実際に聴かせながら、感じた雰囲気の違いを言葉で表現し、【ステップ5～7】は、旋律をつける『うたかたの季』冒頭約30秒を繰り返し観ながら行った。

第2次のワークシートは、これら一つ一つのステップが生徒の思考の中でつながっていくように、1枚に収めたものを用意した。

「ドラマのオープニングに曲をつけよう」ワークシート3

生徒番号 _____ 氏名 _____

ステップ1 / 音楽付き映像と音楽なし映像を観比べよう！

気付いたことを書こう！

音楽があるとき、その場の雰囲気や何かがりや目があった。音楽がないとつまらなくて、その場が進まず、そこに場面が変わる感じがした。

友達の見聞を書こう！

ステップ5 / 「うたかたの季」ドラマ冒頭の主人公の気持ちを探り、心の中のセリフを考えよう！

| 秒数 | 0～約7 | 約7～約12 | 約12～約20 | 約20～約28 |
|---------|---------------------|--------------------|-------------|----------------|
| 場面 | 鳥の聲/自転車に乗っている | 花を写している | 自転車に乗って行く | タイトル |
| 主人公の気持ち | 寂しい | きれい、かわいい | 花に元気をもらおう。 | マイペース |
| 心の中のセリフ | 夕日も小鳥たちがあいてる。風が暖かい。 | こんなところにきれいな花が咲いてる。 | よし、今日も頑張ろう！ | 自分の好きなように生きよう。 |

ステップ6 基準の高さ

ステップ7 この場面のトータルな気持ちを表す速度は？ $\text{♩} = 90$ → **ステップ8** / 旋律をつくらう！

※ステップ8で再生してもよい

ワークシート4

～「気持ち言葉」一覧～

| ポジ気持ち | ネガ気持ち |
|-------|--------|
| うれしい | さみしい |
| 楽しい | 悲しい |
| 幸せ | 切ない |
| 気持ちいい | 辛い |
| スツキリ | 苦しい |
| さわやか | イライラ |
| 満足 | 心細い |
| 感動 | 不気味 |
| 感心 | 不愉快 |
| 和む | 後ろ向き |
| いやされる | 心配 |
| 落ち着く | ゆううつ |
| ワクワク | 落ち込む |
| クセツキ | 不満 |
| おどろか | がっかり |
| ほがらか | 残念 |
| 心地いい | むなしい |
| おどろか | つまらない |
| 羨望 | やりきれない |
| 元氣 | 陽気 |
| 前向き | 不快 |

ステップ2 / 気持ち表現する音の高さと速度の関係を探ろう！

～「気持ち言葉」一覧～の言葉からイメージできる音の高さと速度はどのあたり？ 「気持ち言葉」をいくつか書き入れてみよう！

ステップ3 / 次のラインからイメージする気持ちは？

A ならぬかな音の高低が表す気持ちは？ **安心感**

B 激しい音の高低が表す気持ちは？ **おどろき**

C 音の跳躍が表す気持ちは？ **開放感・満足感**

ステップ4 / 音符の長さ・リズムの違いによる雰囲気の違いを感じ取ろう！

「気持ち言葉」にする？

| 1小節 | どんな雰囲気？ | 「気持ち言葉」にする？ |
|-----|---------|-------------|
| 1 | おだやか | ゆるやか |
| 2 | ゆるやかに進む | さわやか |
| 3 | 散歩 | 和やか |
| 4 | 楽しい | ワクワク |
| 5 | 期待 | 落ち着く |
| 6 | 前に進む | スツキリ |
| 7 | ほがらか | 楽しい |
| 8 | ダンス | 嬉しい |
| 9 | 入キック | 楽しい |
| 10 | 走る | ワクワクが |

上野のりこ

第2次のワークシート

(4) 旋律の創作 (第3次第4時)

第1次での枠組みと第2次での【ステップ2～7】をベースにして創作を行った。ただし、枠組みの⑧にミとソを追加した。

はじめに【ステップ6】の主人公の気持ちラインを参考に音の高さを決めて音を付していくが、実際に再生して聴き、さらに映像と合わせて聴いてみると、自分の思いとはなかなか重ならないことを感じる生徒が多かった。

- ・場面の状況と主人公の気持ちを考えて音の高さやリズムをつけるのは、思った以上に難しかったです。 (生徒C)
- ・主人公が花の写真を撮る瞬間をどんな音にすればいいか悩みました。 (生徒D)

しかし、繰り返し聴いたり、映像と合わせたりしながら「どこをどうすれば自分のイメージに合う音(旋律)になるのか」と問いをもち、試行錯誤する姿が見取れた。

- ・つくったものを何度か聴いて、気になったところを追求していくのがとても楽しかったです。 (生徒E)
- ・私は、気持ちが一番高くなっているところは、写真を撮ったあと自転車に乗るところかなと感じました。そして、その気持ちの高ぶりをどのように表現すればいいか考えました。 (生徒F)

そして、映像から受けたイメージと音楽を形づくっている要素(音の高さとリズム)をかかわらずながら試行錯誤し、もっと良くしたいという意欲も高まった。

- ・音程を波のように変えることで、心拍数が上がるように表現できることに気がきました。最後のタイトルの字が浮かび上がってくる部分をうまくまとめたいです。 (生徒G)

さらに、友だちの作品を聴くことで、自分の作品をもっと良くするヒントを得ることができた。

・〇〇さんの作品は、終わりの音がソでした。どうしてソの音にしたのかという説明を聞いて、なるほど!と思いました。そして、自分も終わりの音をソにしたなら、ここで終わりではなく、このあと続くっという感じが出ました。(生徒H)

うたかたの季

